

学級会のススメ その3

～子ども同士が認め合い、支え合う そして高め合う「支援」の関係をつくる～

学級会の実施に向けて、教師の適切な支援の下、議題と話合いの柱の設定、提案理由が発表されました。いよいよ子ども一人一人が考えを出し合い、互いに分かり合い、認め合い、学級としての協力の在り方を考える話合いへと進みます。

今回は、先回の続きとして、「話合い～合意形成」での教師の働き掛けを紹介します。

ステップ2 「話合い」の一步手前の場面

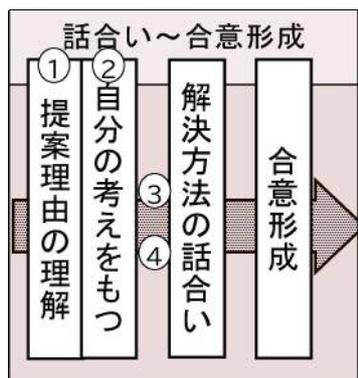
① 提案理由と話合いの柱を基に、ノートやカードに自分の考えを書かせる

子ども一人一人に自分の考えをしっかりとめさせるために、教師の適切な支援の下で自分の考えを書かせます。話合いの柱によっては、「賛成」や「反対」を明確にして記述することもあります。また、「迷い」を書いてもよいと伝えましょう。どんな意見でも、理由（なぜ、そのように考えているのか）を書かせることが重要です。

学級会の前に互いの意見を出し合い、全体で共有することもあります。

学級会の前に、自分の考えをノートやカードとは別に、短冊や付箋に書いて掲示板などに張り出し、友達のと比べて、互いの意見を確かめたりすることで、話合いがより深まることもあります。

休み時間に、掲示板の前で自由な意見交換が始まるなど、効果的！



② 子どもの考えの記述を基に、学級会の授業を構想する

教師は、子どもが書いたものを集め、誰がどのような考えをもっているのかを確認します。さらに話合いの中心になりそうな考えを確認します。教科の授業と同様に、子どもの考えを把握した上で、授業（学級会）での教師の介入の場面を想定します。

事前に子どもの記述に対する助言、発言への励ましを書くと、効果的！

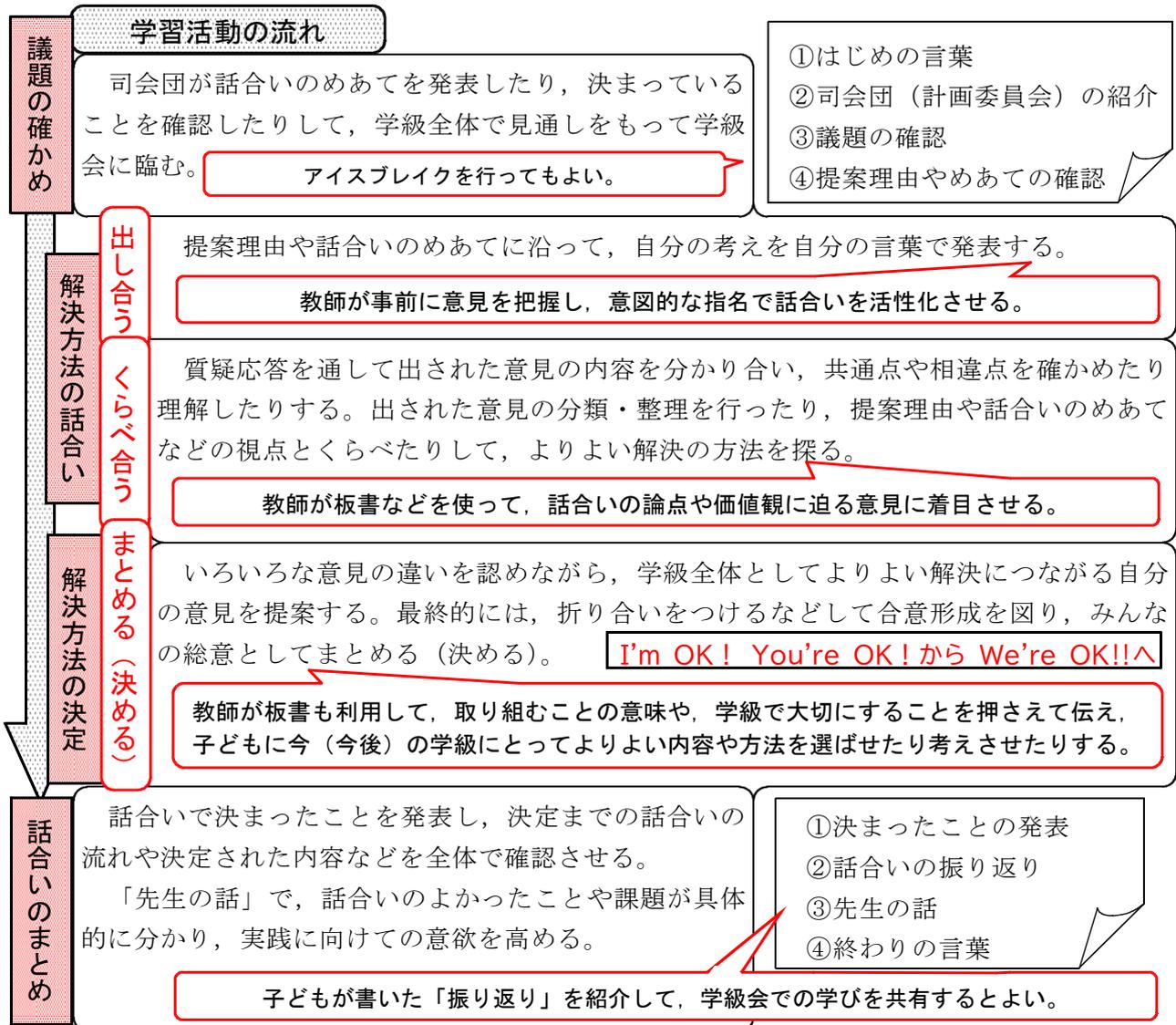
③ 教師と司会団とで話合いの流れを確認する

授業をつくるのは教師です。子ども一人一人の考えを一緒に見ながら話合いの流れを想定し、司会団に任せる場面と教師が介入する場面を相談しておきます。あわせて、学級会を任せることで司会や書記の力を育てることも考えておきます。

④ 大事なおまけ 話合い前日の帰りの会に「明日の話合いが楽しみだな～」と伝える

ステップ3 「話し合い～合意形成」の場面

学級会では、議題や話し合いの柱について考え、意見を出し合うことを通して、学級における生活上の課題を解決することを目指しています。多様な考え方や価値観を共有しながら、学級としての考えや取り組むことについて、学級のみんなが納得できるような解決策を見付け、合意形成を図ります。話し合うことで望ましい人間関係が育まれていくように、教師は、話し合いに適切に介入し、指導・支援を行います。



支持的風土を醸成して、本音を語るができる温かい雰囲気をつくりましょう。話し合いの途中には、教師が学級の実態に迫れるように司会や書記への支援を丁寧に行います。話し合いの進め方や折り合いを付けての合意形成は、子どもの発達段階に応じ、学校全体で系統的に指導する必要があります。

〈引用・参考書籍〉

文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター

「みんなで、よりよい学級学校生活をつくる特別活動」（小学校編）／文溪堂／2019／P127

「学級・学校文化を創る特別活動」（中学校編）／東京書籍／2016／P127

